

【厚木市 令和7年3月 策定）】

校務D X計画

1 校務D X化の現状及び成果

本市におきましては、文部科学省が策定した「教育情報セキュリティポリシーガイドライン」に基づき、校務執行環境のセキュリティを向上するため、平成30年度に校務系と学習系ネットワークの分離環境を構築しました。

平成31年度には「統合型校務支援システム」を導入し、学籍・教務・保健の管理業務及び教職員間・教育委員会間との情報共有のデジタル化を実現し、令和3年度以降においては、順次、学校と保護者間の連絡（欠席連絡など）をデジタル化するなど、着実に校務D Xを推進してきました。

本計画策定時点におきましては、更なる教員の校務負担軽減と教育の質の向上を目指し、「校務系・学習系ネットワークの統合」及び「校務支援システムのクラウド化」を令和8年度までに実現すること決定し、教育情報システムの更改業務に着手しています。

また、校務D Xの推進と併せて、令和3年度から本格的にスタートしたG I G Aスクール構想の下、1人1台端末、授業支援ソフト、デジタルドリル、電子黒板等の導入により教育D Xを推進し、学校運営の効率化及び教育活動の質の向上に取り組んでいます。

2 校務D X化の課題

(1) クラウドサービスの利用

学校から保護者への便り等の配信、テストの実施・採点に関わる業務などについて、様々なクラウドサービスの利用による利便性や効率性の向上に対する期待が高まっています。保護者や学校の利便性や効率性を高めることができるように、教育委員会として様々なサービスに関する調査や研究を実施する必要があります。

3 校務D X化の今後の計画

(1) クラウドサービス活用の拡充

保護者や学校の利便性や効率性をさらに高めることができるように、保護者連絡ツールや自動採点ツールなどの導入に向け、様々なクラウドサービスに関する調査・研究を行います。

(2) 教育情報システムの更改

現状の教育情報システムは校務系と学習系ネットワークを物理的に分離し、2台の端末を運用しています。分離により一定のセキュリティが担保されている一方、端末の運用管理の負担や学習系と校務系のデータ連携が不十分な状況となっていることから、解消に向け「G I G Aスクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議」の提言にある、「校務系・学習系ネットワークの統合」及び「校務支援システムのクラウド化」に取り組めます。

(3) 校務における生成A Iの活用推進

教育現場においても、校務効率化に資する技術として期待されている生成A I技術

について、効果的な活用方法や導入範囲の検討に当たり実証的な取組を進めるとともに、安全な運用を可能とする体制の整備に努めます。

(4) F A X ・押印の見直し

過度なF A Xの使用や必要以上の押印など、校務のデジタル転換を妨げる既存の業務慣行について、それぞれの必要性やデジタルへの転換可能性を評価し、継続的な見直しに努めます。